

小中一貫教育の推進	中期(3年間) 経営目標	短期(今年度) 経営目標 <b>(3/3)</b>	目標達成のための手立て	評価指標	自己評価		学校関係者評価		改善計画
					7月 評価	結果と課題の説明	適正	意見等	改善案
確かな学力	学力の三要素、資質・能力を育成する「主体的な学びを促す授業」の実践	基礎的・基本的な知識技能を習得した児童 3/3	①学習規律の徹底を図る ②確実に授業のまとめ・振り返りを行い、内容を充実させる ③ドリル・ことばタイム・学びなおしの時間を実態に即した内容で行い、基礎学力の確実な定着を図る。 ④読書習慣の定着を図る(たくさん読む) <b>【教務】</b>	①単元末テストの到達度(学期毎) 国語・算数(各観点)80%以上の児童80%以上にする。 ②CRTテスト全国平均値以上(1月) ③読書貯金の低・中・高の目標達成率80%以上 ④児童アンケート(読んだ本の内容を話している)80%以上	C	①1学期の単元末テストの達成率80%以上の児童は、国語83%、算数78%であった。ドリルタイム・ことばタイム・学びなおしの時間の内容を実態に即したものであるか見直しを行い、基礎学力の確実な定着を図る。 ③読書貯金の目標を達成した児童は、58.4%であった。家庭学習として毎日読書をするように設定しているが、児童によって取組みに差がある。家庭と連携して読書推進を行う。 ④児童アンケート(読んだ本の内容を話している)と答えた児童は、61.8%であった。授業の課題として読書に取組んだり、朝の会で本の紹介をさせたりした。今後も読書啓発や本の紹介を行っていく。	△	・上下南小との学力差が気になった。 ・5年生の単元末テストの達成率の向上を期待する。 ・読書量を増やすために家庭の協力を呼びかける。 ・読書量を増やし、読解力の向上を図ってほしい。 ・コロナ禍の中、児童の学力向上、苦手分野の克服などに教職員が努力を継続している。	・個の課題に対応していくため、課題が大きい学年は、2クラスに分けて、少人数指導を行う。 ・ドリルタイム等の内容を実態に即したものであるか見直し、基礎学力の定着を図る。 ・「子ども司書」や図書委員会、放送委員会の活動等とも連携し、児童主体の読書活動を推進していく。 ・読書を家庭学習で毎日取組ませ、読書量を増やし、読解力の向上を図る。
		主体的・探求的な学びの姿勢を持つ児童 3/3	①「楽しく考える発問」による思考の深まり ②児童の「問い」から生まれた課題設定による対話的な学びを展開する。 ③ことばタイム・LAF等により語彙力を増やし、自分の考えを発信する活動の展開(日記・俳句会(年4回)・意見文・読書感想文・新聞等) ④ICTを効果的に活用する。 ⑤自主学習を充実させる。 <b>【教務】</b>	①「課題発見・解決学習」児童質問紙「考えることが楽しい」と答える児童80% ②友達力を貸したり借りたりしながら学びを進めている肯定的回答80%以上 ③自分の考えを表現するのが楽しい児童80%	B	①児童質問紙「考えることが楽しい」と答えた児童は、86.7%であった。研究授業を通して、発問や課題設定の工夫について研修を行っている。今後も授業改善に取り組んでいく。 ②児童質問紙「友達力を貸したり借りたりしながら学びを進めている」に肯定的な回答をした児童は、86.7%であった。授業では、学び合いの場を設定し、ことばタイムでは、答えのない問いの解を話し合いながら導くという活動に取組んだりした。今後も、語彙力と対話力の向上を目指し、授業改善を行う。 ③児童質問紙「相手に分かりやすく伝わるように発表を工夫している」に肯定的な回答をして児童は、81.1%であった。児童が自分の考えを表現する場を授業・朝の会・ことばタイムで設定している。今後も、経験を積みませ、児童の表現力を伸ばす。	○	・自らが求め調べる学習活動を児童の自信と理解に繋げてほしい。 ・対話力を向上し、自分の意見や思いを伝えられるようになってほしい。	・学級通信やHP等で、学校での学習の取組みを発信し、家庭との連携を図る。 ・「ことばタイム」等の取組みを継続して行う。また、取組みの振り返りを行い、身に付けた力を評価し、価値付ける。他教科の学習や生活の中でも取組んだ内容等を活用させる。 ・個のつまずきを丁寧に見取り、個別の支援を充実させ、授業改善に取り組む。
健やかな体・豊かな心	自律した児童の育成 <b>【規範意識と自己肯定感 自己有用感の育成】</b>	健康な体を作るために自分の記録に挑戦する児童 3/3	①行事に目標を持たせる。「北小ギネス」「北っ子のびのび体操」「北っ子トレーニング」「食育19の日」 ②基本的生活習慣を身につけさせる。 ③委員会・児童会を中心とした縦割り班・学年対抗行事等の委員会活動の充実 <b>【健推】</b>	①新体力テストの種目における県平均達成率80%以上(8種目×6学年=96種目) ②北小ギネスの更新(各種目、90名)児童又は自己記録の更新(体力合計点、昨年度と比較可能な2～6年児童74名)児童80%以上 ③ステップアップノートの振り返り肯定的評価90%以上 ④ストップ9(早寝・早起き)ができている児童の割合85%以上	C	①61% (59/96種目) 種目としては、握力(3/12:男女×6学年=12)、上体起こし(6/12)、の達成率が低い。学年としては、2年(8/16:男女×8種目)と5年(4/16)で課題が大きかった。 ②86.5% (64/74名) 北小ギネスの更新は8名11種目であった。個々の結果で成長が見られる。①②共に、授業改善や行間体育、体育的行事に向けて取組み等により、体力向上を図っていく。 ③97.5% 児童会が企画した「1年生をむかえる会」を実施した。また、各委員会で発表をする機会をつくり、実施している(委員会5つの内、3つ発表済)。2学期からも全委員会で発表する場を設ける。 ④79% 全児童が、アウトメディアに挑戦する取組みを行った。2学期は、集計した結果を全校や各学級で指導をし、啓発する。	△	・毎日継続していくことで、体力の向上を図ってほしい。 ・目標に向けて挑戦するや達成する喜びを実感させてほしい。 ・スポーツ以外での遊びに対して積極的な子どもが少なくなっている気がする。 ・体力の向上が学力の向上へとつながっていく。 ・体力の重点課題の改善への取組みの充実を期待する。 ・コロナ禍の影響で、家でのゲーム、動画視聴の依存が気になる。	・毎朝の北っ子のびのび体操や、体育の始業時のサーキットトレーニング、行間体育(3分間マラソン等)を継続して行う。 ・体育参観日、マラソン大会、なわとび大会等の体育的行事に向けて、ステップアップノートを活用して目標を決めて取組ませ、振り返りを行い、体力向上の意識を高める。マラソンカード等を作成し、一人一人が自分の目標をもって練習や本番に取り組めるようにする。 ・全校遊びや学級遊びを通じて、みんなで体を動かして遊ぶことの楽しさを味わわせ、外遊びを奨励し、体力の向上につなげる。 ・保健だより等を通じた保護者への啓発を行い、アウトメディアの取組みや生活習慣チェックを活用して、保護者とともに望ましい生活習慣の確立を図る。
		自他を大切に、相手を思いやり、気配りができ、地域や学校を大切にしようとする児童 2/3 <b>【掃除の目指す姿】</b> 黙って、見つけて、協力して、丁寧に <b>【挨拶の目指す姿】</b> ★地域・お客様・先生へレベル5の挨拶ができる ★場に応じた挨拶ができる	①「無言掃除の徹底」縦割り班長をリーダーとして振り返りの充実を図る。 ②自分で考えて動く掃除の充実 <b>【健推】</b> ③「挨拶の徹底」児童会活動を中心とした挨拶の励行・肯定的評価・徹底を図る ④自己開示できる居心地のよい学級づくりの充実 <b>【生徒指導】</b> ⑤地域の課題に向き合い、地域とともに学ぶ授業の展開(地域人材の活用・地域への貢献) <b>【学級】</b>	①児童アンケート(学期1回)「無言・丁寧・自分で見つけて掃除ができていく」各項目80% ②「学校が掃除が行き届いている」地域・保護者評価80%以上 ③「自分につけるあゆみ」17挨拶自己評価95%以上 ④「児童は場に応じた気持ちのよい挨拶が出来る」地域・保護者評価90%以上 ⑤児童アンケート(学期1回)「安心して学級で生活できる」90%以上 ⑥児童アンケート地域の方との学習満足度・地域への貢献度の向上	B	①91.6% 高学年が中心となり、下級生に指示やアドバイスを出しながら掃除を行っている。教職員アンケートにより、数名話をしながら掃除をしている児童が数名いることが分かったため、無言掃除をするよう声掛けをしていく。 ②95.4% 各掃除場所で、担当の職員が掃除をやらせ切る指導を継続した。また、職員アンケートを通して児童の送迎時取組状況把握し、指導が活きた。 ③84.9% ④93.8% 児童会による挨拶運動や、挨拶マスター運動を行っている。また、職員が進んで挨拶する取組も行っている。継続して職員から進んで挨拶する取組を行っていく。 ⑤91.6% 児童向け・保護者向けいじめアンケートを実施した。また、アンケート実施後の児童への聞き取りも行った。日ごろから、保護者との連携を図るために電話連絡を行っている。「どちらかといえば安心できない」「安心できない」に回答した児童が7名いた。日ごろから児童の様子をよく観察し、話しを聞く場面を設け、安心して学校へ登校できるようにしていく。 ⑥80.6% 1・2年生はいも・生姜の苗植え、3年生は地域の店へ社会見学、4年生はエコキャップ活動、5年生は家庭科の実習、6年生は町探検で、地域の方との学習を行い、効果的であった。今後、CS委員との連携を強め、活動を広げていく。	○	・児童は、地域で出会うとよく挨拶をする。 ・挨拶を通して、心の豊かさを育成してほしい。 ・いじめ問題に対して、早期発見、早期解決が大切なので、児童の様子をしっかりと観察して対応してほしい。 ・挨拶は、幼児期や身近にいる大人達の影響が大きいと思うので、大人が子どもに手本となる姿を見せることが大切である。	・「あいさつマスター」の取組みや児童会による挨拶ボランティアにより、手本となる児童を奨励し、学校全体へと広げる。 ・職員が積極的に挨拶を行い、範を示す。 ・毎学期の保護者アンケートや、毎月の児童アンケートと面談により、児童が相談するきっかけをつくり、相談しやすい雰囲気づくりに取組み、早期発見、早期解決につなげる。 ・毎週末の交流会で、全校児童の様子を職員間で共有し、職員全体で児童の様子を観察したり、声かけを行ったりする。担任以外の職員でも話がしやすい雰囲気をつくる。 ・縦割り班掃除の特徴を活かし、上級生から下級生への声掛け等により、清掃活動の充実を図る。 ・上級生には、時間内に隅々まで掃除をやり切らせるために、段取りよく見通しをもって掃除取組むよう指導する。 ・CS委員との連携や情報交換をより深めながら、生活科や総合的な学習の時間等での地域との連携を継続し、地域に対する思いを深める。